

## 認定調査スキルアップちらし 令和5年4月号



※調査票を作成する際は、認定調査員テキストで「定義、選択基準の確認」を試みましょう！（認定調査の定義や選択基準は独特なものが多いです。）

※認定調査を行うにあたり、過去のスキルアップちらしをご活用ください。  
NAGOYAかいごネット>事業者向けはこちら>認定調査>認定調査の適正化

※特記事項(セル高さ自動調節)(XSLX形式)をアップしました。ご活用ください！  
NAGOYAかいごネット>事業者向け>認定調査>調査員テキストと特記事項>認定調査特記事項

※調査員番号の記載もれがあります。「介護保険認定調査票(水色のもの)」へ調査員番号を忘れずに記載してください。

臨時的取り扱いの終了に伴い、認定調査を行う機会が増えていると思います。  
NAGOYAかいごネットから、ちらしのバックナンバーや特記事項様式がダウンロードできます。活用してください。



スキルアップちゃん

特記事項における明らかな誤字・脱字は、問合せすることなく、名古屋市介護認定事務センターで修正させていただきますので、ご了承ください。

## 介護の手間の総量＝具体的な介助の方法×頻度

頻度は文末に（○回／△）

特記事項  
必ず書こう  
手間・頻度



スキルアップちゃん

2-2 移動	看護師が車椅子を押す介助を行っている。移動機会は、リハビリ(2回／日×週6回)、食事(3回／日)、お風呂(2回／週)。
2-2 移動	入浴時のみ、職員がリクライニング式車いすを押して移動している(2回／週)
2-5 排尿	オムツ・パッドを使用しており、家族が定時で交換・後始末をしている(日中3回、夜間3回)
2-5 排尿	紙パンツと尿取りパッドを使用しており、尿意はある。自宅では、自身でトイレに行く(昼2～3回、夜2回)
2-5 排尿	尿意はありコールを押す。日中(4～5回)はトイレ、夜間(2～10回)はポータブルで排泄。

## 2-5「排尿」

「調査員マニュアル」P41「2-5・6 排尿・  
排便（介助の方法）」をもう一度確認しましょう！  
NAGOYAかいごネットから、「調査員マニユア  
ル」がダウンロードできます。  
排便も同様に記入してください。

排尿は1日の中に「何度も発生する介助」であり、「個人差」が大きい項目です。

### ★ポイントは4つ

排泄に係る介護の手間＝

【①排泄方法（介助の方法）×②頻度＋③失敗の有無と介護】

※④昼夜の違い（方法及び頻度）

対象者の「活動時間帯（日中・夕方）」と「就寝時（夜間・深夜）」で、排泄の  
状況が異なることが多いため④も記載。

※①～④の内容については下記＜わかりやすい特記事項の例＞を参照してください。

排泄場所も書いてね



## <わかりやすい特記事項の例>



昼夜の排泄回数は文末に  
きちんと記入されています



### 【介助されていない】

例1) ①排泄の一連の行為は自分でやっている。 ③失敗はない。 ②④昼間はトイレで7~8回、夜間はポータブルトイレで2回、※ポータブルトイレの後始末は毎朝家族が行っている。より頻回な状況で選択した。

例2) ①トイレで排泄している。 ②④ (日中5回、夜間3回) ③尿漏れがあり布パンツにパットをあてている。汚染時のパットの交換は自分でしているが、※時々尿臭がすることがあり、その時はヘルパーが声をかけパットの交換をする。(2~3日/回)

※はマークに反映  
されない隠れ介護

### 【見守り】

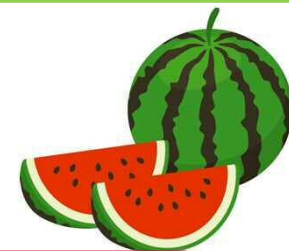
①トイレで排泄している。 ②④ (回数をはっきりしないが、昼間3回、夜間2回くらい) 本人は「排泄の失敗はない」と話す。 ③尿臭がありトイレ内の汚染がひどい。汚れた下着が床に落ちている。適切な介助の方法として、時間でトイレの声掛け、誘導、トイレ内での見守りが必要と判断し「見守り」とする。

### 【一部介助】

①排泄の一連の行為はトイレで自分でやっている。 ②④ (昼間4~5回、夜間1~2回) ③トイレに間に合わず毎回失敗がある。リハビリパンツにパットを使用している。パットの交換は自分でやっているというが、できておらず1日4回家族がパットの交換を行っている。より頻回な状況で選択。

## 3-4 「短期記憶」

認定調査スキルアップちらし  
令和5年7月号



日頃の状況を確認していますか。(※①)  
3点提示の方法は正しく行っていますか。(※②)

### 【定義】

「短期記憶」(面接調査の直前に何をしていたか思い出す)能力を評価する項目。  
面接調査日の調査直前にしていたことについて、把握しているかどうかのことである。



スキルアップちゃん

【わかりやすい記入例】 ※①②③は下記を見てください。

例1

「できる」を選択

① 調査直前の事を尋ねると「トイレに行っていた」と回答。正答。③ 立会者から、日頃も短期記憶はできていると聞き取る。

例2

「できない」を選択

① 調査直前の事を尋ねると「座っていた」と回答。状況が確認できないため ② 3点提示を実施。5分後に2点を提示し残りの1点を尋ねると「わからん」と回答。③ 訪問介護の職員から日頃から直前の事を覚えていることが難しいと聞き取る。

例3

「できない」を選択

② 3点提示を実施。5分後に2点を提示し残りの1点を尋ねると正答。③ 日頃は5分前の事も忘れてしまうのでできて驚いたと家族より聞き取る。

## 【確認方法 ① ② ③】

① 面接調査の直前  
または当日行った  
ことについて具体的  
に答えることができ  
るか確認

確認できれば  
⇒③へ



2つを提示してい  
ますか？  
回答は提示されて  
いない  
1つの物です！

### ② 【3点提示】 **注**

①で質問の確認が難しい場合には、  
「ペン」「時計」「視力確認表（対  
象者に対しては、紙または手の絵な  
ど平易な言い方をする）」を見せて  
何があるか復唱させ、これから3つ  
の物を見えないところにしまい、何  
がなくなったか問うので覚えておく  
よう指示する。

5分以上してからこれらの物のうち、  
2つを提示し提示されていないもの  
について答えられたかで選択する。

3点提示するものを変えて  
いませんか？ 提示するもの  
は変えてはいけません！



### ③ 調査対象者や介護者から 日頃の状況を聞き取る。

一定期間（調査日より概ね  
過去1週間）の状況におい  
て、より頻回な状況に基づ  
き選択を行う。

調査当日の状況と日頃の状  
況が異なる場合は、調査当  
日の状況と日頃の状況との  
違い、選択した根拠等につ  
いて、具体的な内容を特記  
事項に記載する。

認定調査スキルアップちらし  
令和5年8月号

1-5「座位保持」の  
評価軸は「能力」です。  
日常生活の「座位」の状況  
ではなく、日頃の「能力」で  
確認していますか？



スキルアップちゃん

## 1-5 「座位保持」

一次判定結果に影響が出やすい項目です。

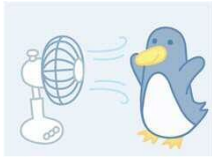
夏バテ注意!



「1-10洗身」、「2-4食事  
摂取」、「2-11ズボン等の  
着脱」等、行為を行っている時の「座位の状態」を聞くと「日頃の能力」がみえてきます！

「**座位保持**」とは、背もたれのない状態での座位の状態を10分間程度保持できるかどうかの能力である。

調査時「つかまらないでも  
できますか」とまず聞いて  
いますか。



## 【わかりやすい記入例】

### 1 「できる」

調査時は、何もつかまらず座っていることができた。日頃も支えが無くても10分程度、座位保持ができると聞き取る。

### 2 「自分の手で支えればできる」

①調査時は、5分程度は支えがなくても、座っていることができた。10分程度の座位は、テーブルに自分の手をつき支えがあればできると聞き取る。

②調査時は、何もつかまらず座っていることができた。日頃は5分程度でめまいや身体がふらついてくるので、自分の膝に手をつき加重し支えていると聞き取り、日頃の状況より「自分の手で支えればできる」と判断した。

### 3 「支えてもらえばできる」

調査時は、自分の手でテーブルを支えて5分程座位を保てたが、腰痛がひどく、それ以上はできなかった。食事も背もたれがないと座っていただけないと聞き取る。

### 4 「できない」

背骨を骨折し、体を曲げることができない状態と聞き取る。



POINT

調査対象者に実際に行ってもらった状況と、日頃の状況が違ったときは、選択した根拠等について、具体的な内容を「特記事項」に記載してください。



熱中症には気をつけてね！



認定調査スキルアップちらし  
令和5年9月号

## 2-1 「移乗」

評価軸: 介助の方法

移乗は個人差の  
大きい項目です！

清拭・じょくそう予防等を目的とした「体位交換」、シーツ交換の際に、でん部を動かす行為も移乗に含まれます。

「1-3寝返り」に記入していませんか？

### 【定義】

「ベッドから車いす（いす）へ」「車いすからいすへ」「ベッドからポータブルトイレへ」「車いす（いす）からポータブルトイレへ」「畳からいすへ」「ベッドからストレッチャーへ」等、でん部を移動させ、いす等へ乗り移ることである。



熱中症には気をつけようね！



スキルアップちゃん

『介助の方法』記載ポイント: ①「移乗」の機会、②頻度、③具体的な介助の方法

## 【わかりやすい記入例】

### 1 「介助されていない」

◆日常生活において移乗行為は発生しない。移乗行為があると想定すれば、1群の状況から介助は必要ないと判断する。

◆日常生活において移乗行為は発生しない。受診時は院内で車いすを使用している。(1回/月)車いすから車への移乗が発生するが、受診は3週間前だったため、介助されていないを選択する。

マークに反映されない**隠れ介助**についても記載してください。

①移乗の機会 ②頻度が書かれているとわかりやすいです！



### 2 「見守り等」

◆ベッドから車いす(食堂へ3回/日)、車いすから便座(7回/日)の移乗が発生している。移乗時はふらつき、転倒の危険があり、常時傍で家族が見守っている。

◆移乗行為は発生しない。椅子にきちんと座れず、端に座ったり、座りそこねがある。転倒の危険もあり、移乗時は、介護者が見守り、声掛け等が必要と判断し見守り等を選択する。

### 3 「一部介助」

ベッドから車いす(3回/日)、ベッドからポータブルトイレ(7回/日)へは、介助者が身体を支える介助を行っている。

### 4 「全介助」

寝たきりの状態のため移乗は介護者が抱きかかえ行っている。(3回/週の入浴時のみ)